

概 要 報 告

実施期日	令和7年8月4日(月)
部 会 名	小学校 特別活動部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『話し合い活動を通して、相手の思いを受け止め自分の思いを発信できる子の育成』

提案概要

原案方式によって学級会を行い、話し合い活動を通して、相手の思いを受け止め自分の思いを発信できる子を育む実践。単元『にくまきまつりの出し物を決めよう』として、学級会での話し合いを重ね、児童が主体的にプロジェクト「にくまきまつき」を運営することができた。

①「にくまきまつき」に至るまでの過程

児童の実態としては、男女の仲が良いが、自分の思いを発信したり、相手の思いを受け止めたりする経験が乏しい。これはコロナの影響を受け、集団での生活経験が少ないことが一因であると考えられる。そのため、集団での関わりを増やすため、様々な教科でペア学習を取り入れて、自分の考えを伝える経験を積ませた。

また、係活動で自分たちのやりたいことを伝え合ったり、国語の『鳥獣戯画』の学習で、自分の伝えたいことを聞いてもらうにはどうしたらいいかを考えたりしてきた。それらの学習を積み重ねることで、自分の思いを受け止めてもらえるという経験を積むことができた。

おまつりプロジェクトを立ち上げ、にくまきまつきを開催することにした。学級会では、司会グループを設け、児童たちが順番で司会をするようにしかけた。また、話し合いでは、安易に多数決で決定するのではなく、みんなが納得する話をして、合意形成をはかることに重きをおいた。さらに学級会では、黒板に理由を書く作業をなくし、短冊を用いて、似ている意見は短冊を移動してまとめるなど学級会の行い方も指導してきた。

②「にくまきまつき」の成果

- ・小さな積み重ねで自分の思いを伝えられるようになったこと。
- ・係活動を通して、自分たちがやりたいことを発信するという方法の良さを実感したこと。
- ・相手の話を聞いて考えを受け入れるようになったこと。

質疑応答

Q. 子どもたちが相手を論破するという思考になってしまうと、話し合いにならない。

A. 司会グループ以外の子たちが相手を言い負かすような傾向があれば、次は司会グループにさせる。言い合いではなく、みんなで一つの意見を作っていくことが大切と伝え続ける。

Q. 話し合い活動の板書が難しい。板書の工夫を教えてほしい。

A. 短冊方式。意見が似ている、繋がっているものを移動させる。

Q. グループ分けの方法は？グループでの話し合いの見取り方は？

A. その時々。担任が決めることもあれば、子どもたちが決めることもある。人数制限はしないが、3人以上で話し合わせる。人数を多くすると話がまとまらなと伝え、子どもたちは6人以上は作らなかった。見取りについては、週に1回担任に経過報告するようにしていた。

Q. 時間の確保について

A. 大きな議題については、年間計画に組み込む。総合的な学習の時間や道徳とつなげる。

Q. 合意形成について、どうしても多数決になってしまう。

A. 多数決も良いが、合意形成を大切にしてほしいということを伝えてきた。子どもたちも多数決に頼らず、似た意見をまとめるなど工夫が見られた。

Q. 低学年ではどのような場面を話し合いとして取り上げるか。

A. 主導権は担任が持っているが、だんだんと子どもたちに任せていく。

協議の柱及び協議概要

○どのような形で、どのような学級会をしているのか。

- ・タブレット端末を活用してアンケートをとる。アンケートをもとに学級委員の生徒と担任で相談する。回数は夏休みまでに2回実施。
- ・アンケートの質問内容はリーダーと教師で事前に相談して決める。
- ・クラスの問題などを各クラスで取り上げる。それを学年集会などで取り扱う。
- ・学級会というよりは学年の行事で決めなくてはいけないことを決めている。
- ・代表委員会でも提案の仕方を知らない子がいる。代表委員会でも多数決で決めている。
- ・自分の意見を伝えられない、折り合いをつけられない、意見のまとめ方を知らない子が多い。
- ・子どもたちの意見が実現したこともある。自分たちの意見が通るという経験は良い経験になる。

○小学校と中学校の特別活動をつなぐには。

- ・組織は大きく変わらない。運営委員会を経験した子は生徒会の流れも何となくわかっている。
- ・運営委員会の子たちは話し合いが上手。
- ・小学校は学級担任制のため、授業時間を十分に話し合いに充てられるが、中学校では教科担任制のため時間割が決まっており、それができない。
- ・小中学校で交流することも大切なのではないかな。
- ・（中学校から）小学校では話し合いへの意欲を高めてほしい。学校は自分たちで変えることができると思ってほしい。
- ・小学校の委員会の活動時間の少なさ。その少なさから教師の働きかけが必要になり、教師主体の活動になってしまっている。
- ・大人の都合で「それはできない」という部分が多い。
→ 教師からある程度の枠を与えてあげることも大事なのではないかな。

まとめ概要

本授業を参観したが、それぞれの意見を聞いた上で、合意形成がなされていた。特別活動について、どのような目的をもって活動するか、その目的が意識されないまま活動が行われているということが課題である。教科については話し合う機会が多くても、学級会についてはそうではないのではないかな。職員間で話すことが必要。低学年から学級活動を積み重ねることで、自分も他者も尊重される集団づくりにつながる。各校の実態や地域の特色も踏まえた取組を行う特別活動はとても魅力的でやりがいのある教育活動である。